S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況 (2007)

埼玉県で 2007 年に分離され衛生研究所で確認された 3 類感染症である腸管出血性大腸菌は、134 株でした。2007 年の検出数は 2001 年の和風キムチ関連の diffuse outbreak を中心とした検出数には及ばないものの、前年に比べて 30%以上も増加しました。月別の分離株数で見ると、1 月、2 月、12 月を除いて毎月分離されており、例年と同様夏期に多い傾向が認められました。

分離株の血清型は、例年通り O157:H7 が 112 株（83.6%）と最も多く、次いで O26:H11 が 10 株（7.5%）、O157:H-が 5 株（3.7%）、O111:H-が 4 株（3.0%）でした。また、その他の血清型では、O1:H7、O103:H2 及び O121:H19 がそれぞれ 1 株分離されています。O157:H7 の毒素型別では、VT1&2 産生株が 73 株、VT2 産生株が 39 株でした(表 1)。届け出時の成績では、VT１あるいは VT2 単独産生性であったものが、その後、衛生研究所で検討した結果、VT1&2 両毒素の産生性が確認された例がありました。

表１　分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2007)

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	73
O157:H7	VT2	39
O157:H－	VT1&2	2
O157:H－	VT2	3
O26: H11	VT1	9
O26: H11	VT2	1
O1:H7	VT1	1
O103:H2	VT1&2	1
O111:H－	VT1	4
O121:H19	VT2	1
合計		134

ＰFGE 法を用いた DNA 切断パターンによる型別では、O157:H7（VT1&2）73 株が 27 パターン、O157:H7（VT2）39 株が 11 パターンに型別されました。

埼玉県では、腸管出血性大腸菌感染症による diffuse outbreak の早期探知と原因究明のため、「O157 等感染症発生原因調査事業」を実施しています。今後とも原因究明調査等へのご協力をお願いします。